

サムコル® フロアブル 10

powered by
RYNAXYPYR®



The miracles of science™

®は米国デュポン社の登録商標です。

はじめに

米国デュポン社で開発されたクロラントラニプロール（通称：リナキシピル®）は、新規骨格、新規作用性を有する殺虫剤で、日本を含め世界各国で同時に開発を進めており、2003年からDKI-0002 10%フロアブル（サムコルフロアブル10）として果樹、茶に対してそれぞれ委託試験を実施しています。

本剤は低薬量でチヨウ目およびハエ目、コウチュウ目等広範囲な害虫に卓効を示す一方、天敵・訪花昆虫に対する安全性が高いという特長があります。また、作物に対しては高い安全性を示します。新たな害虫防除体系の確立に貢献できると確信しております。

目次

はじめに	2
成分・性状/安全性	3
特長	4
作用性	5
殺虫スペクトラム	6
効果面での特長	7
圃場試験結果 [茶の害虫に対する防除効果]	9
圃場試験結果 [果樹の害虫に対する防除効果]	11
有用昆虫・天敵への影響	19
登録申請内容	20
品種別薬害結果	21
委託試験結果	22

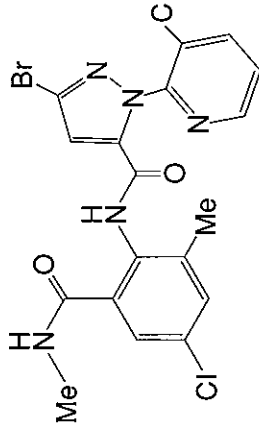
成分・性状

■委託試験番号：DKI-0002、10%フロアブル

■有効成分の種類及び含有量：

3-プロモ-N-[4-クロロ-2-メチル-6-(メチルカルバモイル)フェニル]-1-(3-クロロピリジン-2-イル)-1H-ピラゾール-5-カルボキサミド……………10.0%

■構造式：



■化合物の系統：Anthranilic diamide系

■一般名：クロラントラニプロール

■物理的・化学的性状：淡褐色水和性粘稠懸濁液体

■有効成分の通称：リナキシピル (Rynaxypyr®)

本剤は単剤のみならず様々な混合剤も開発しますので、商品名や一般名とは別に、どの剤型や混合剤に含まれていても確認しやすいように、上記通称を名付けました。

(例：リナキシピル剤、リナキシピル混合剤)

安全性

■毒性

普通物相当で哺乳類、鳥類、魚類に対して高い安全性を示しますが、ミジンコに対しては比較的高い毒性も有しています。

■哺乳類、鳥類、魚類への影響 (原体)

コイ	>15mg/l (LC50)
ウズラ	>2,250mg/kg
ラット経口	>5,000mg/kg
ラット経皮	>5,000mg/kg

■作物安全性 (薬害)

茎葉散布、灌漑処理のいずれでも、これまでに薬害の知見は確認されていません。

■標的外生物に対する安全性

天敵：現在までカブリダニ、寄生蜂、テントウムシ、シヨクガタマバエ、ハナカメムシに対して影響が認められていません。

訪花昆虫：ミツバチ、マメコバチに高薬量で僅かな影響が認められたケースがありましたが、実用上は問題ないレベルと考えられます。

水産動物：魚類に対しては高い安全性が認められていますが、ミジンコに対し比較的高い毒性を示します。

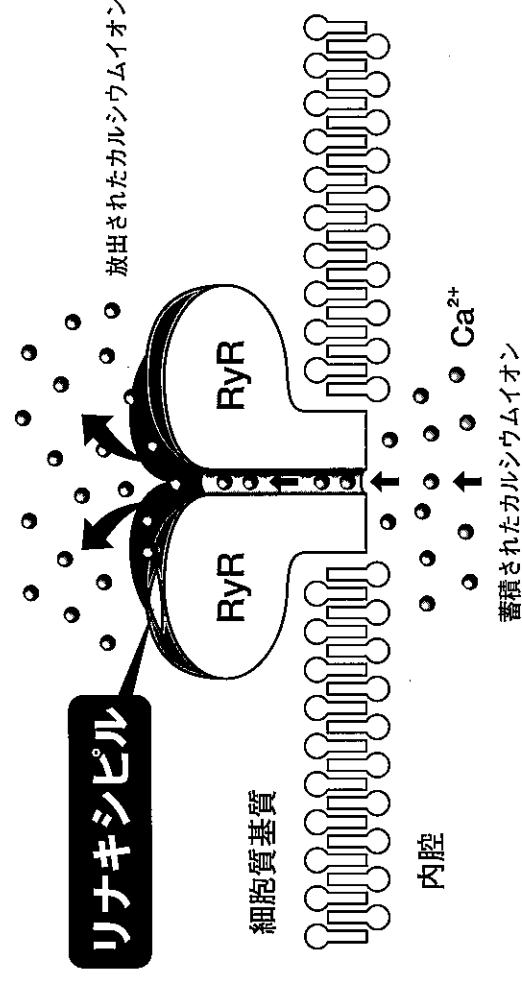
特長

- 1. 新規殺虫成分**
全く新しい作用性を有する新規有効成分・クロラントラニリプロールを主成分としています。
- 2. 摂食活性と速やかな効果**
主に経口により薬剤が取り込まれ、速やかに摂食活動を停止させます。
- 3. 幅広い殺虫スペクトラム**
チョウ目害虫およびハエ目、コウチュウ目およびカメムシ目害虫の一部に卓効を示します。
- 4. 抵抗性害虫に優れた効果**
既存のいずれの薬剤抵抗性害虫にも高い活性を示します。
- 5. 作物に対する安全性**
作物に対して高い安全性が確認されています。
過去の委託試験では、薬害が出た事例はありません。
- 6. 高い耐雨性**
高い耐雨性を有しているため、薬剤が雨で流れ落ちるおそれが少ないといえます。
- 7. 長期持続効果**
2週間以上の長い効果が期待できます。
- 8. 殺ふ化幼虫効果**
ふ化直後の幼虫に対し高い効果を示しますので、殺卵効果と同等の作用が期待できます。
- 9. リサージェンス**
ハダニ、カイガラムシ類に対するリサージェンスは認められません。

作用性

筋肉細胞の筋小胞体は細胞内のカルシウムイオン濃度を調整する事により筋肉の収縮・弛緩をコントロールしています。リナキシピルは筋小胞体のリアノジン受容体 (RyR) に結合して筋小胞体内のカルシウムイオンを細胞内に放出させます。その結果、昆虫は筋収縮を起こし速やかに活動を停止し、死亡します。

■リナキシピル作用機作



■リナキシピルを処理した害虫 (上: 処理、下: 無処理)



チャノココクモンハマキ



チャハマキ (登録試験中)

殺虫スペクトラム

確認されている殺虫スペクトラムは下記の通りです。

目	種名	活性
チヨウ目	コナガ	○
	モンシロチョウ	○
	ヨトウムシ	○
	ハスモンヨトウ	○
	オオタバコガ	○
	シロイチモジヨトウ	○
	ハイマダラノメイガ	○
	アワノメイガ	○
	カブラヤガ	○
	モモンクイガ	○
	ナシヒメシンクイ	○
	モノゴマダラノメイガ	○
	キンモンホソガ	○
ギンモンハモグリガ	○	
リンゴコクモンハマキ	○	
トビハマキ	○	
ミダレカクモンハマキ	○	
モモハモグリガ	○	
ミカンハモグリガ	○	
ケムシ類	○	
チャノホソガ	○	
チャハマキ	○	
チャノコクモンハマキ	○	
ヨモギエダシヤク	○	
ニカメイガ	○	
コブノメイガ	○	
フタオビコヤガ	○	
果樹	モモ	○
	リンゴ	○
	梨	○
	桃	○
	柿	○
	葡萄	○
	イチゴ	○
	ブルーベリー	○
	サクランボ	○
	りんご	○
	みかん	○
	みも	○
	いちじく	○
茶	茶	○
	茶	○
	茶	○
	茶	○
	茶	○
	茶	○
	茶	○
	茶	○
	茶	○
	茶	○
	茶	○
	茶	○
	茶	○
稲	稲	○
	稲	○
	稲	○
	稲	○
	稲	○
	稲	○
	稲	○
	稲	○
	稲	○
	稲	○
	稲	○
	稲	○
	稲	○

目	種名	活性
ハエ目	トマトハモグリバエ	○
	ナスハモグリバエ	○
	マメハモグリバエ	○
	ナモグリバエ	○
コウチュウ目	ウリハムシ	△
	テンサイトビハムシ	×
	イネズミゾウムシ	○
	イネドロオイムシ	○
カメムシ目	モモアカアブラムシ	×
	ダイコンアブラムシ	×
	ワタアブラムシ	△
	オンシツコナジラミ	△
カメムシ目	チャバネアオカメムシ	×
	クワコナカイガラムシ	×
	チャノミドリヒメヨコバイ	△
	ウスミドリカスミカメ	×
稲	ツマグロヨコバイ	○
	トビロウンカ	×
	ヒメトビウンカ	×
	セジロウンカ	×
アザミウマ目	ミカンキイロアザミウマ	×
	ネギアザミウマ	×
	チャノキイロアザミウマ	×
	ナミハダニ	×

効果面での特長

■ 取り込み経路 (経口・経皮)

チヨウ目害虫に対する経口投与、経皮投与を比較した結果、経口投与の方がより優れた効果を発揮する傾向にありましたが、経皮的な取り込みによっても高い効果が認められました。

■ 経口毒性と経皮毒性の効果比較

害虫	処理方法	LC50 (ppm)	効果比 (経口/経皮)
ハスモンヨトウ (3齢幼虫)	葉面浸漬法 (経口毒性) 局所施用法 (経皮毒性)	0.1 11	110倍
オオタバコガ (3齢幼虫)	葉面浸漬法 (経口毒性) 局所施用法 (経皮毒性)	0.2 29	145倍

供試薬剤：クロラントラニプロール5%水和剤

■ 効果発現速度

殺虫効果発現までの時間は、A乳剤と比較するとやや遅れましたが、B乳剤に比べると早く効果が観察されました。しかし、食害抑制効果はA乳剤と同等であることが確認されました。

■ ハスモンヨトウ5齢幼虫に対する効果発現速度 (2004年 北興化学)

薬剤	濃度 (ppm)	補正死亡率 (%)											LT50値 (時間)	食害度 (8h)		
		0.25h	0.5h	1h	1.5h	2.5h	3.5h	5h	7h	9h	24h					
クロラントラニプロール5%水和剤	25	0	6.7	13.3	26.7	53.3	100	100	100	100	100	100	100	100	2.0	1
A乳剤	100	93.3	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	100	<0.25	1
B乳剤	5	0	0	0	0	0	0	6.7	40	73.3	100	100	100	7.4	2.5	5
無処理	—	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	—	—	—

■ 試験方法

供試虫：ハスモンヨトウ5齢 (累代飼育系統)

処理方法：キャベツ葉片浸漬

食害度：0 (食害面積0%) ~ 5 (食害面積100%) の6段階

■ 温度別殺虫活性

クロラントラニプロール剤の場合は、温度による殺虫活性の変動はほとんど認められず、温度依存の傾向にある既存の殺虫剤に比べて防除効果の振れは生じにくいと考えられます。

■ ハスモンヨトウ5齢幼虫に対する温度別の殺虫活性 (2004年 北興化学)

薬剤	LC50 (ppm)			
	15℃	20℃	25℃	30℃
クロラントラニプロール5%水和剤	0.02	<0.013	0.017	0.01
A乳剤	0.26	1.1	1.5	2.8

■ 試験方法

供試虫： ハスモンヨトウ5齢 (累代飼育系統)
処理方法： キャベツ葉片浸漬

■ 発育齢別活性

既存の殺虫剤では効果が振れやすい大型チョウ目害虫について異なる齢期の幼虫に対していずれも十分な殺虫活性が認められました。

■ 各種害虫に対する発育齢別殺虫活性 (2004年 北興化学)

害虫	判定日 (処理後日数)	LC50 (ppm)		
		1齢	3齢	5齢
ハスモンヨトウ	6	0.01	0.02	0.15
ヨトウガ	6	0.03	0.07	0.1 - 0.5
オオタバコガ	6	0.003	0.008	0.022

■ 試験方法

供試虫： ハスモンヨトウ、ヨトウガ、オオタバコガ (いずれも累代飼育系統)
処理方法： キャベツ葉片浸漬

■ 殺ふ化幼虫効果

本剤は殺ふ化幼虫効果があるため、幼虫はふ化直後、速やかに死亡します。



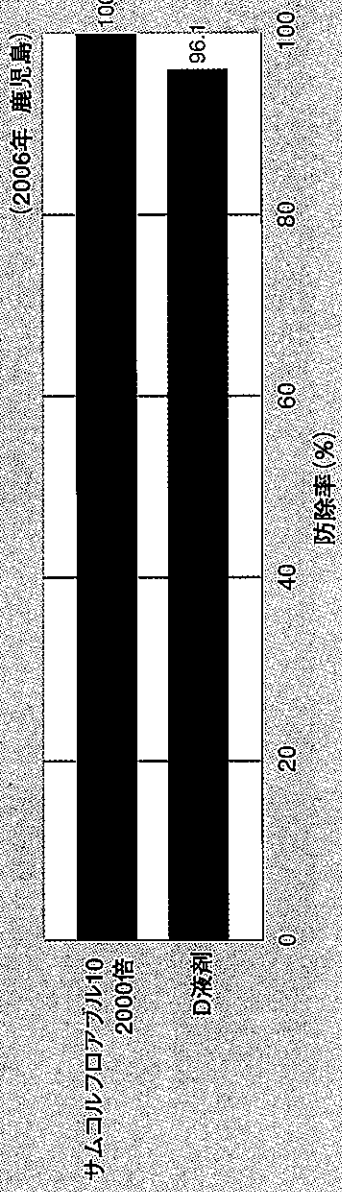
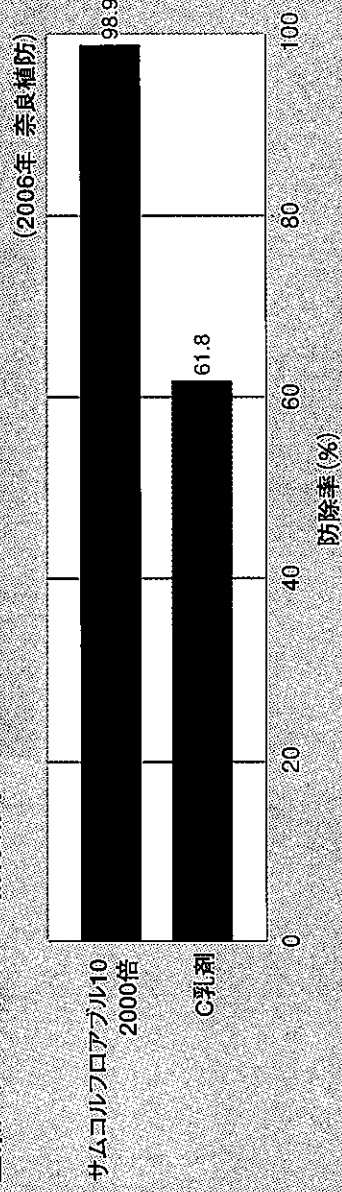
圃場試験結果

茶、果樹における圃場試験の結果をご紹介します。

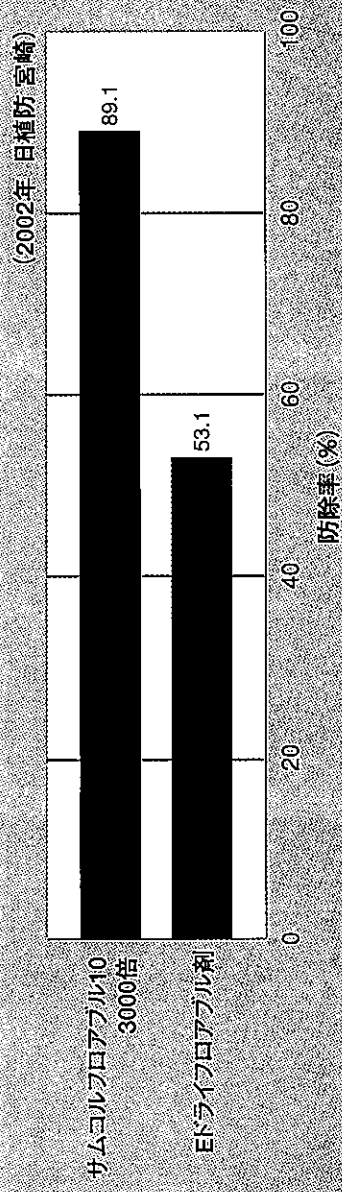
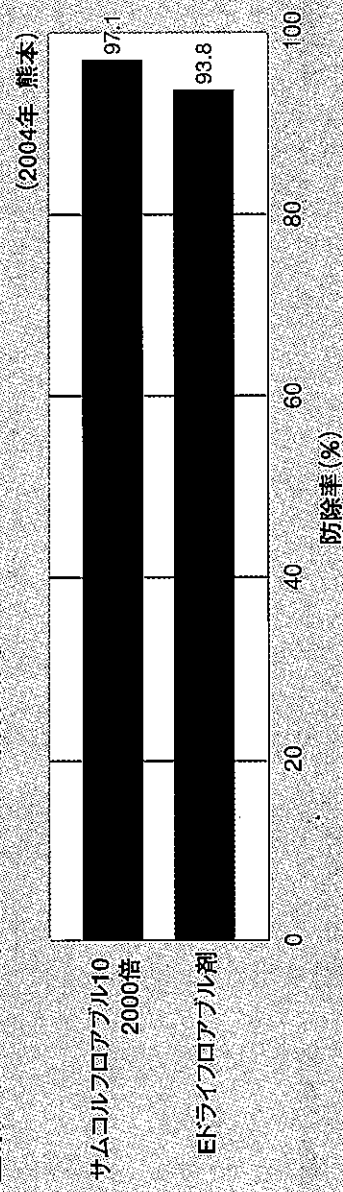
茶

本剤はチャノホソガに対して非常に高い活性があります。一方、ハマキムシに対しては通常より早期のタイミングで散布することや、むらなく丁寧に散布するなど、効果安定の重要なポイントです。

■ 茶/チャノホソガ 防除効果



■ 茶/チャノコカクモンハマキ 防除効果



果樹

本剤は、果樹の潜葉性害虫、シンクイムシ類などに高い効果を示します。害虫についてのコメントを下記にまとめ、12ページ以降では、りんご、もも、なしと作物別に試験結果を紹介いたします。

■ 潜葉性害虫

本剤は、モモハモグリガ、キンモンホソガ、ギンモンハモグリガといった果樹の潜葉性害虫に対し高い効果を示します。

■ ハマキムシ類

本剤はハマキムシ類に対しても安定した効果を示しますが、「葉を巻く」という害虫の特色と、死に至らないような極微量の薬量でも摂食阻害作用を発現するという本剤の特長から、効果の発現が判りづらい傾向があります。したがって、調査をする場合は単に死亡率だけでなく、食害程度の評価や、観察期間を延長するなどの留意が必要です。

■ シンクイムシ類

全世界で実施された試験では、ナシヒメシンクイやモモノゴダラメイガの同属害虫などに非常に高い効果を示しました。日本でもナシヒメシンクイによる新梢被害に対する防除効果が確認されています。また、モモシンクイについては既存剤と同等の効果認められますが、直接果実に被害を与える害虫であり、果実食入防止の場面では慎重な推進が必要です。

■ 果樹の害虫



キンモンホソガ

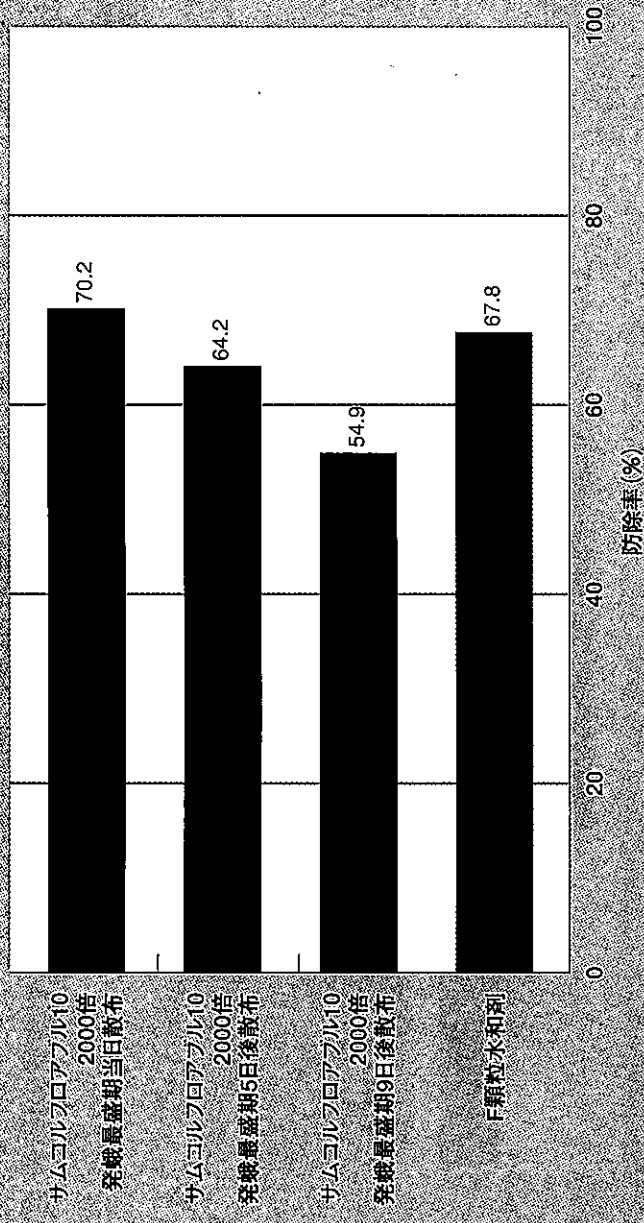


ハマキムシ



モモハモグリガ

■ 茶/チャハマキ 防除効果 (2008年 野来研)



■ 試験方法

品 種： おくみどり

処理日： 8月7日(発蛾最盛期当日)、8月12日(発蛾最盛期5日後)、8月16日(発蛾最盛期9日後)

散布流量： 200㍓/10a 区制： 1区1.8×7m、3反復 調査日： 9月11日(見取り法)

■ 考察

時期をずらして4回の散布を行ったが、散布時期は早めの方が効果が高く、遅くなるにつれて効果が下がる結果を得た。8月7日 発蛾最盛期当日のサムコルフロアゾール10/2000倍散布と、8月16日 発蛾最盛期9日後のF顆粒水和剤/2000倍散布で同等の結果となった。サムコルフロアゾール10は残効期間が長い特徴を生かし、早めの散布を推奨するのが望ましい。

■ 茶の害虫



チャホソガ



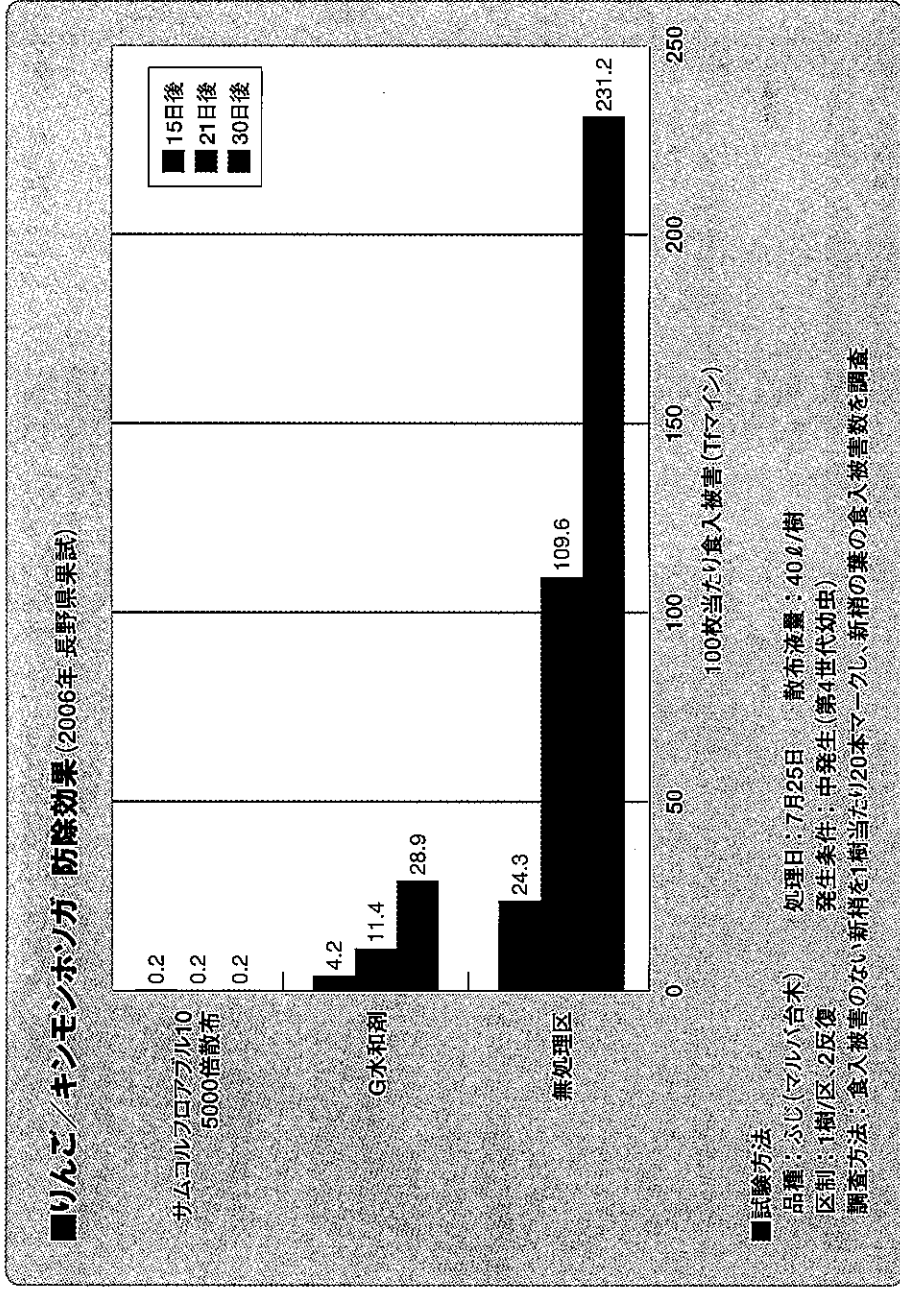
チャノコカクモンハマキ



チャハマキ

りんご

◆ 潜葉性害虫



■りんご／キンモンソノガ 試験 (2006年 秋田県農技七果試)

薬剤	希釈倍数	新梢当たりのマイン数	
		新梢	葉
サムコルプロアブール10	5000倍	0.02	0.12
G水和剤	4000倍	—	8.67
無処理区	—	—	—

■試験方法
 品種：ふじ(樹齢15年生) 処理日：6月12日
 散布液量：10ℓ/樹 区制：3樹/区、反復なし
 発生条件：中発生 調査日：7月10日(最終散布28日後)
 調査方法：1樹から20新梢をランダムに選び、全葉を調査

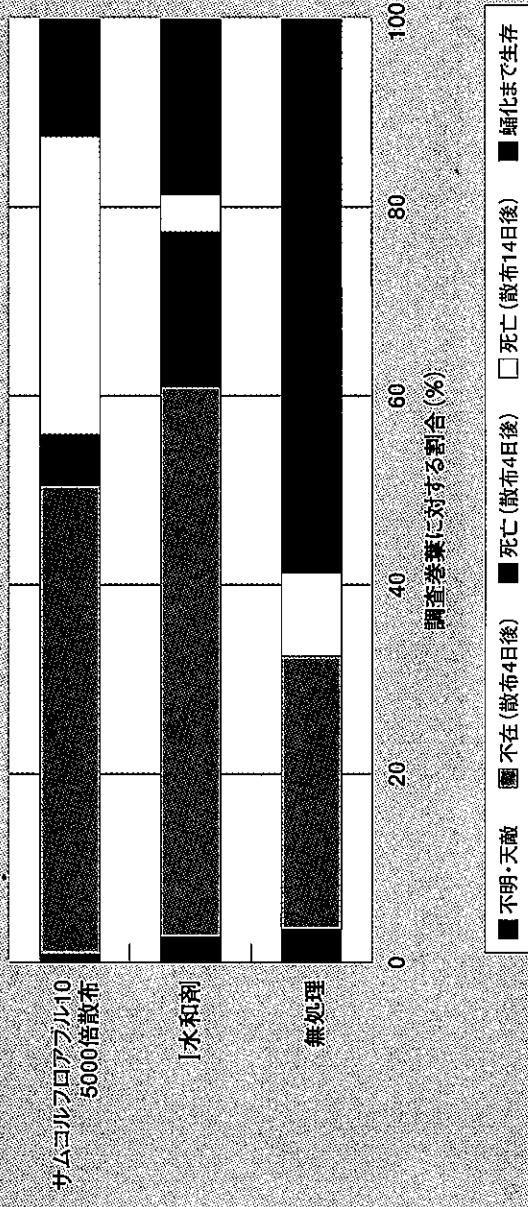
■りんご／キンモンハモグリガ 試験 (2005年 秋田県果試)

薬剤	希釈倍数	被害数		マイン数
		新梢	葉	
サムコルプロアブール10	5000倍	5	6	7
H顆粒水和剤	10000倍	11	13	15
無処理区	—	30	41	49

■試験方法
 品種：ふじ、玉林(樹齢25年生) 処理日：7月22日 散布液量：20ℓ/樹
 区制：5樹/区(ふじ3～4樹および玉林1～2樹)、反復なし 発生条件：少発生
 調査日：8月12日(散布21日後) 調査方法：1樹当たり50新梢の先端10葉目までの被害葉数を調査

◆ ハマキムシ類

■りんご／ハマキムシ類 (トビハマキ主体) 防除効果 (2004年 長野県果試)



■りんご／リンゴコクモクモンハマキ 試験 (2004年 福島県)

薬剤	希釈倍数	側枝当たり	
		被害葉数	幼虫数
サムコルプロアブール10	5000倍	1.0	0
J水和剤	1000倍	1.0	0
無処理区	—	6.2	0.5

■試験方法
 品種：ふじ(樹齢17年生) 処理日：6月28日
 散布液量：15ℓ/樹 区制：樹/区、3反復
 調査日：7月14日(散布12日後)
 調査方法：卵塊接種(3卵塊/樹)の後、1樹当たり2側枝の被害葉数および虫数を調査

■りんご／リンゴコクモクモンハマキ 試験 (2005年 日植防研)

薬剤	希釈倍数	側枝当たり	
		被害葉数	幼虫数
サムコルプロアブール10	5000倍	17	2
J水和剤	1000倍	10	3
無処理区	—	80	25

■試験方法
 品種：みしまふじ(樹齢5年生) 処理日：6月30日
 散布液量：1ℓ/樹 区制：1樹/区、3反復
 調査日：7月13日(散布13日後)
 調査方法：若齢幼虫を放飼し、各樹の被害葉数および虫数を調査

■りんご/ミダレカケモンハマキ 試験 (2006年 秋田県農技セ果試)

薬剤	希釈倍数	ふ化数	巻葉数	生虫数
サムコルフロアブル10	5000倍	224	1	0
KDライフロアブル剤	1000倍	298	1	0
無処理区	—	192	50	31

■試験方法

品 種：ふじ(樹齢10年生) 処理日：5月18日 散布液量：10ℓ/樹
 区 制：3樹/区 調査日：6月6日(散布19日後)
 調査方法：寄生虫数は各樹を調査、越冬卵塊は回収し実体顕微鏡でふ化数を調査

■りんご/ミダレカケモンハマキ 試験 (2006年 青森農研せりんご試)

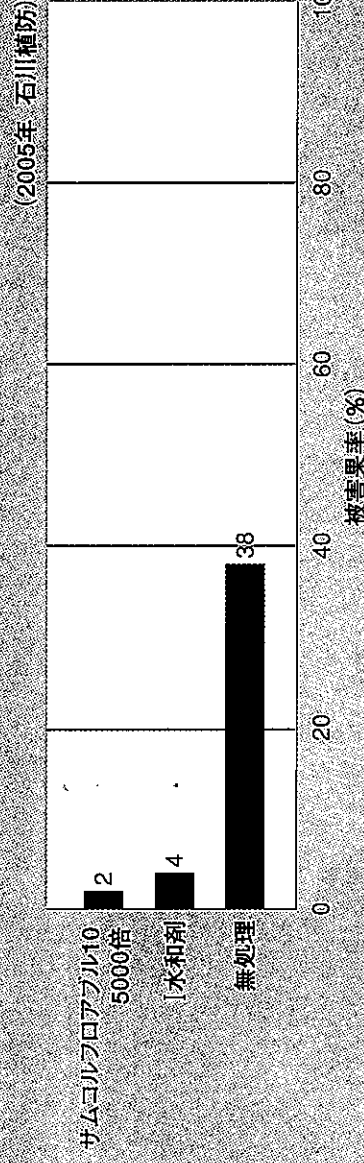
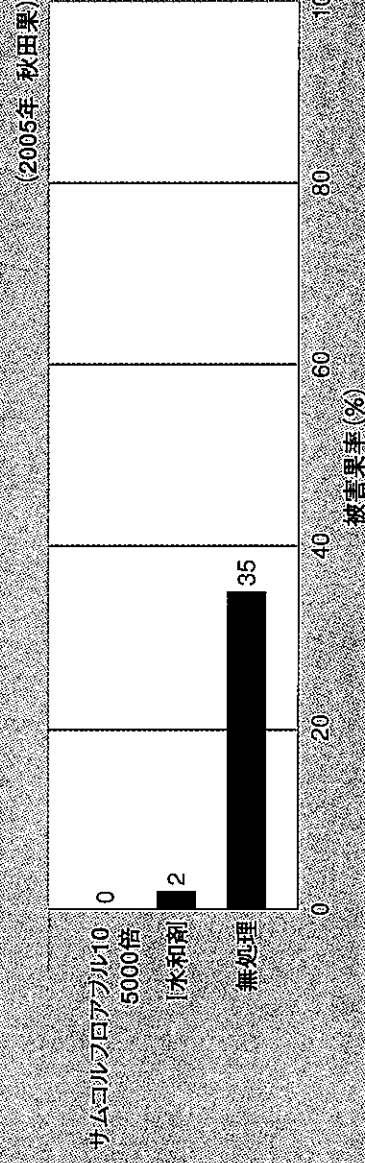
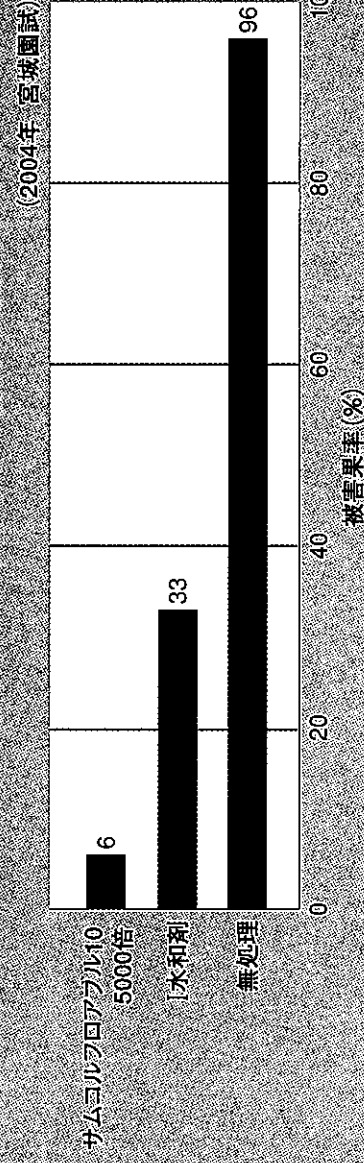
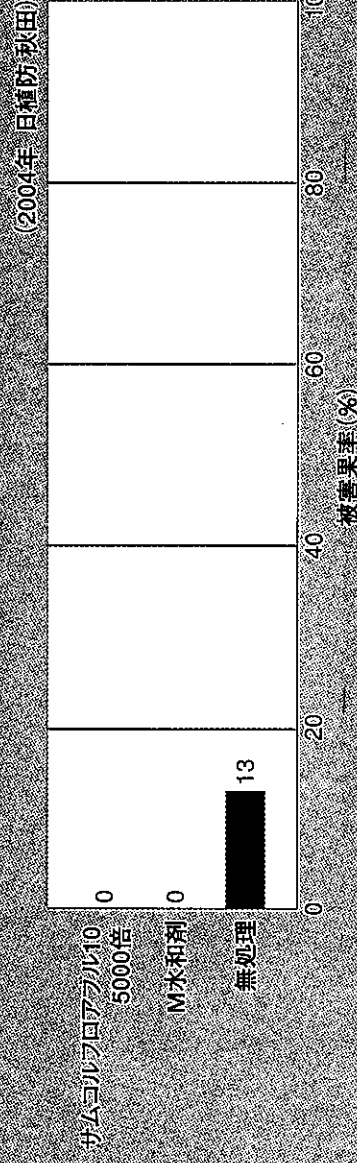
薬剤	希釈倍数	ふ化数	巻葉数	生虫数
サムコルフロアブル10	5000倍	137	1.2	1.2
L顆粒水和剤	2000倍	120.2	6	3
無散布	—	127.6	21	18.7

■試験方法

品 種：ふじ(樹齢2年生) 処理日：5月16日、25日 散布液量：5ℓ/樹 区制：6~7樹/区
 調査日：6月1日(落花10日後)、12日(落花20日後)
 調査方法：全樹の巻葉数調査、越冬卵塊は回収し実体顕微鏡でふ化数を調査

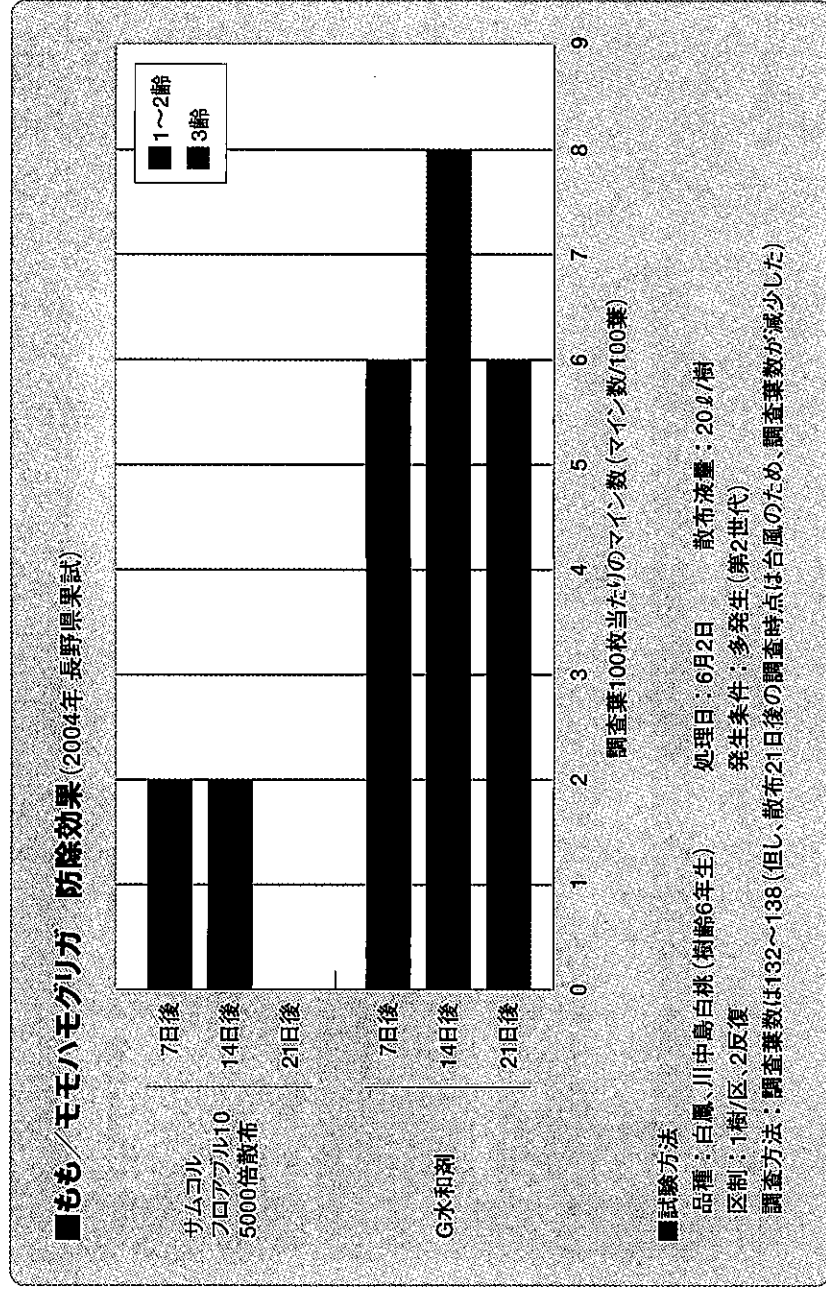
◆シンクイムシ類

■りんご/モモシンクイガ 防除効果



もも

◆ 潜葉性害虫



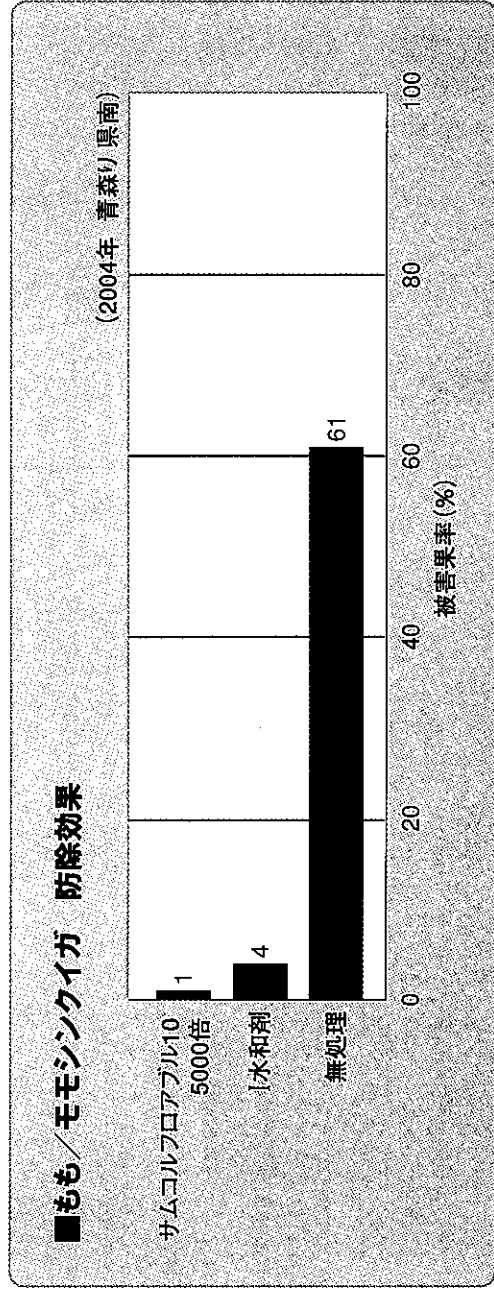
もも／モモハモグリガ試験 (2004年 山梨県果試)

薬剤	希釈倍数	死虫率 (%)
サムコルフロアブル10	5000倍	97.4
N水和剤	1500倍	82.0
無処理区	—	29.6

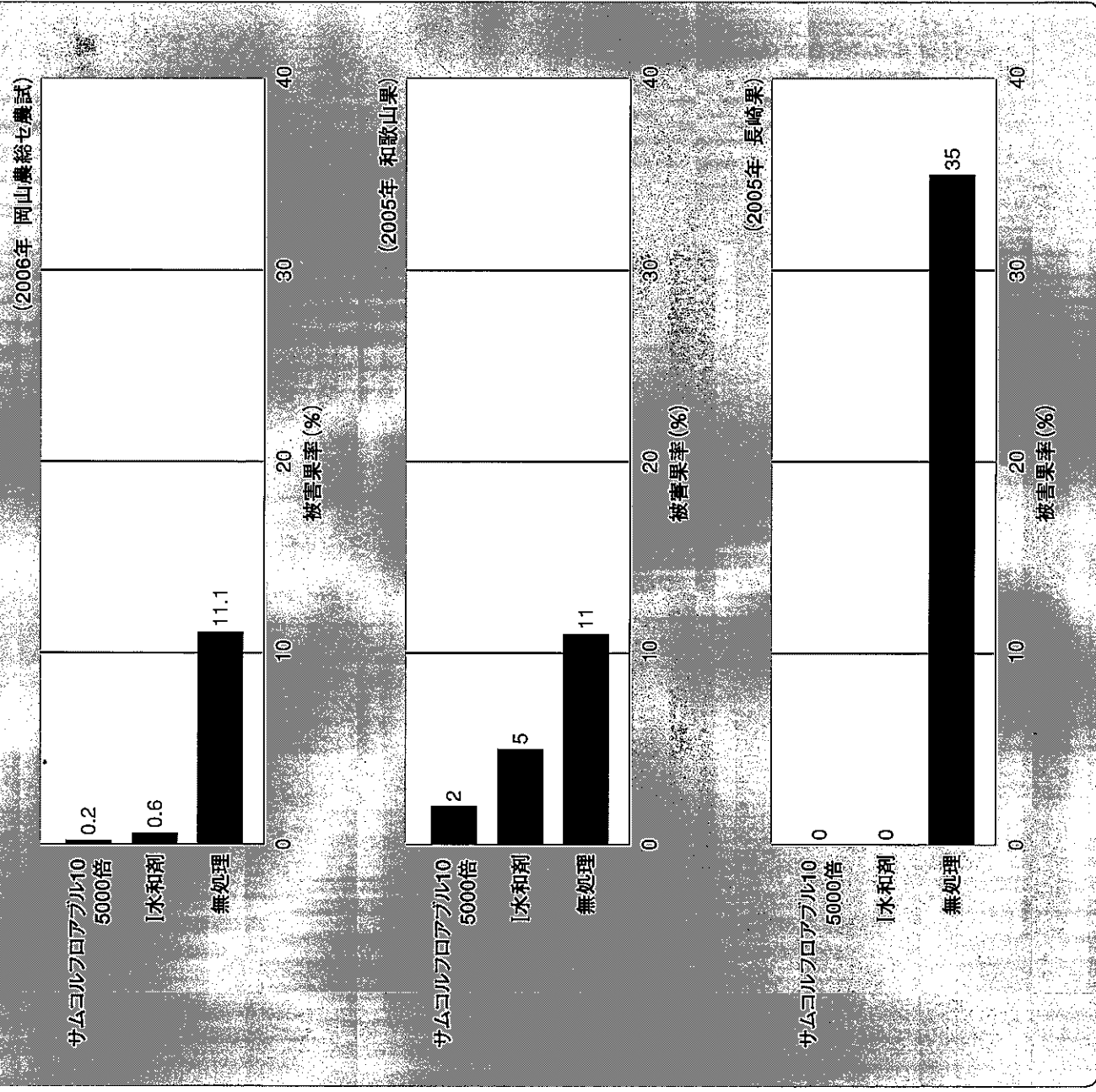
■ 試験方法

品種：日川白鳳 (樹齢7年生)
 処理日：5月26日
 散布液量：20ℓ/樹
 区制：1樹/区、反復なし
 発生条件：多発生
 調査日：6月3日 (散布8日後)
 調査方法：各区とも任意の新梢20本につき、先端7葉を調査

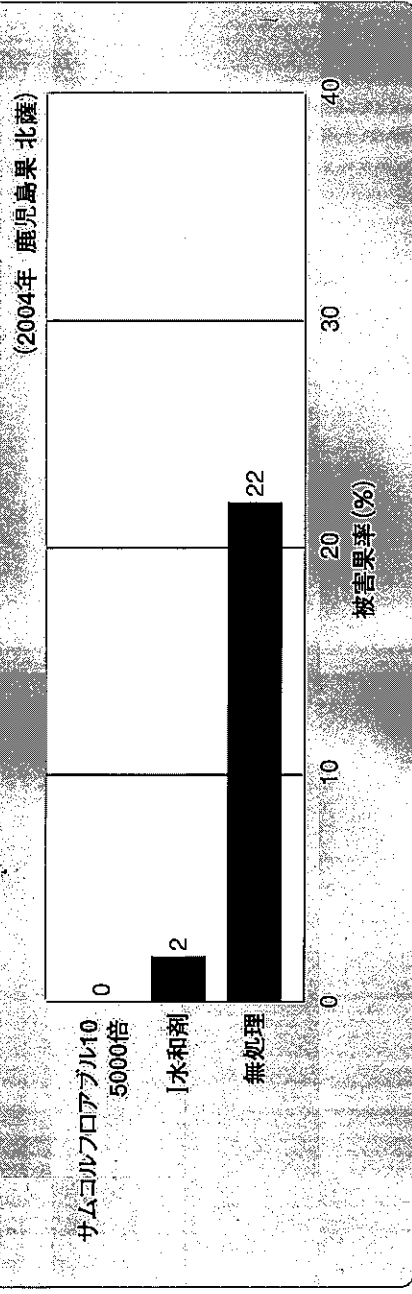
◆ シンクイムシ類



もも／モモノゴダラノメイガ 防除効果



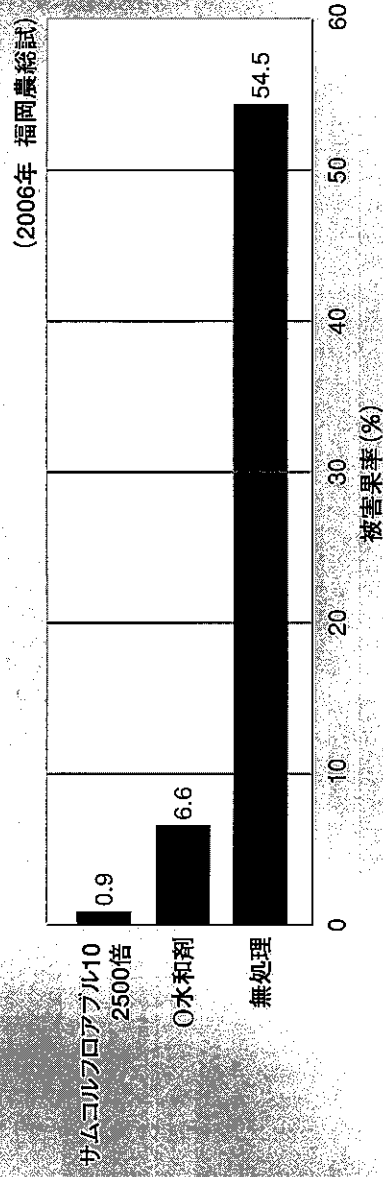
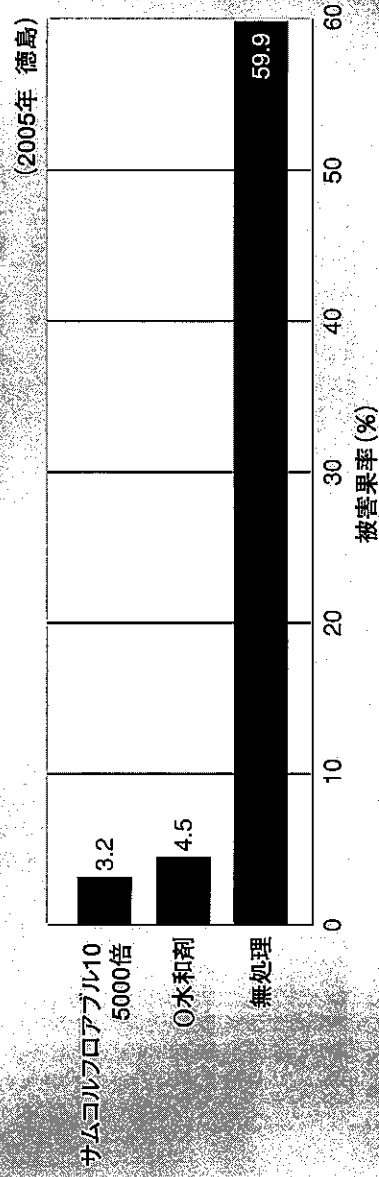
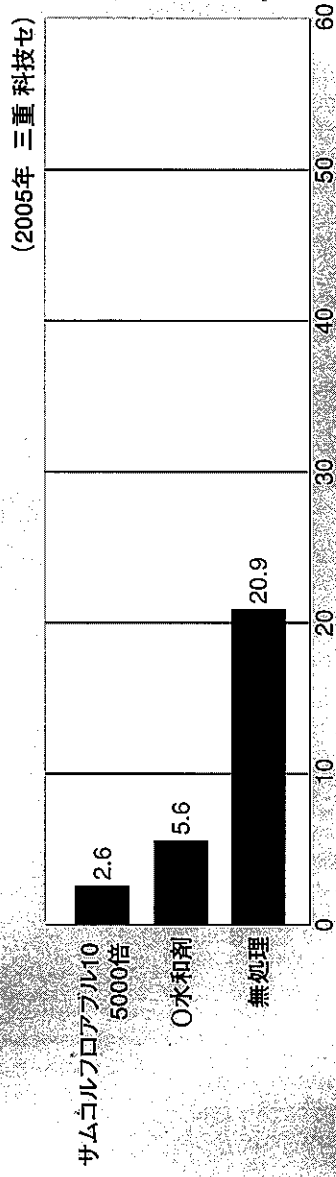
もも／ナシヒメシンクイ 防除効果



なし

◆ シンクイムシ類

■ なし/ナシヒメシンクイ 防除効果



有用昆虫・天敵への影響

訪花昆虫および天敵に対し、比較的影響が少ないことが確認されています。

■ マメコバチに対する影響試験 (2004年 青森りんご試)

薬剤	希釈倍率	供試虫数	処理後の生存率 (%)		
			1日後	2日後	4日後
サムコルプロアブラル10	2500倍	雄 10 雌 10 計 20	100	100	100
展着剤 新リノー	5000倍	雄 10 雌 10 計 20	100	100	100

りんごの受粉昆虫であるマメコバチ成虫に対して、影響はありません。

■ ミツバチに対する影響

セイヨウミツバチに対する影響はありません。

供試生物	供試薬剤	試験方法 (投与方法・投与量・試験条件等)	試験結果	試験実施機関及び報告年
セイヨウミツバチ (羽化後2~5週)	原体	経口処理: 150、15μg/ Bee	LD50 48時間: >100μg/ Bee	日本植物防疫協会 研究所 (2004年)
セイヨウミツバチ (羽化後2~5週)	水和剤 (5%)	経皮処理 (直接散布): 500倍、1000倍	500倍、1000倍共に 影響なし	日本植物防疫協会 研究所 (2007年)
セイヨウミツバチ (1巣箱)	水和剤 (5%)	ほ場試験: 1000倍希釈160ℓ / 10a ビニールハウス	補正死亡率* 0% 訪花活動及びひ群の 維持に影響なし	日本植物防疫協会 研究所 (2007年)

■ 天敵昆虫に対する影響

供試生物	供試薬剤	試験方法 (投与方法・投与量・試験条件等)	試験結果	影響なしの評価*	試験実施機関及び報告年
チリカブリダニ (第一若虫)	原体	検体を50ppmに希釈し、 リーフディスクに 4μℓ/cm散布	補正死亡率 1日後:21.7% 2日後:14.2%	◎	日本植物防疫協会 研究所 (2006年)

* IOBCおよび日本バイオロジカルコントロール協議会基準による:
死亡率◎: 0~30%、○: 30~80%、△: 80~99%、×: 99~100% (室内試験)

登録申請内容

■適用害虫と使用方法

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	クロラントリプロロールを含む農薬の総使用回数
茶	チャノコカクモンハマキ チャノボンガ	2000倍	200～400 ℓ/10a	摘採3日前まで	1回		1回
	シンクイムシ類	2500～ 5000倍					
りんご	ハマキムシ類 ギンモンホソガ キンモンハマモグリガ	5000倍			3回以内	散布	3回以内
	アメリカシロヒトリ	2500倍	200～700 ℓ/10a	収穫3日前まで			
おとう	シンクイムシ類	2500倍			2回以内		
	シンクイムシ類 モモハマモグリガ	5000倍					2回以内

▲使用上の注意

- 使用前によく振ってから使用してください。
- 使用量に合わせ薬液を調整し、使いきってください。
- 散布液調整後はできるだけ速やかに散布してください。
- 使用液量は、対象作物の生育段階、栽培形態及び使用方法に合わせて調節してください。
- 過度の連用を避け、可能な限り作用性の異なる薬剤やその他の防除手段を組み合わせ使用してください。
- 蜜に対して影響があるので、周辺の農薬にはかからないようにしてください。
- 空容器は圃場などに放置せず、9回以上水洗し、環境に影響のないよう適切に処理してください。洗浄水はタンクに入れてください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、とくに初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましいです。

▲安全使用上の注意

- 誤飲などのないように注意してください。
- 本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないように注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。
- 本剤は皮膚に対して刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合は直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- 散布の際は手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用して薬剤が皮膚に付着しないよう注意してください。
- 水産動植物（甲殻類）に影響を及ぼす恐れがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調整を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

品種別薬害結果

作物名		品種		希釈倍数	処理方法	圃場	薬害
あんず		新潟大実		1250倍	散布(倍量)	露地	—
		信州大実、新潟大実		2500倍	散布	露地	—
おとう		佐藤錦/アオハ、高砂		2500倍	散布	露地	—
		宮内伊予柑		100倍ポット	灌注	ポット	—
すもも		ニュー太陽、秋姫、ソルダム		2500倍	散布	露地	—
		やぶきた		1000倍	散布	露地	—
茶		やぶきた、ゆたかみどり、おくみどり、しゅんめい、おくひかり、山の嵐吹		2000倍	散布	露地	—
		豊水、南水、幸水、二十世紀、バードレッド		2500倍	散布	露地	—
なし		長十郎		5000倍	散布	ポット	—
		愛宕		5000倍	散布	コンテナ	—
		ラ・フランス、ゼネラル・レクラーク、幸水、長十郎、豊水		5000倍	散布	露地	—
		巨峰、甲斐路		2500倍	散布(倍量)	露地	—
ぶどう		デラウェア、甲州、巨峰		5000倍	散布	露地	—
		デラウェア		5000倍	散布	施設	—
もも		大久保		2500倍	散布	露地	—
		大久保、あかつき、清水白桃、川中島白桃、早生白鳳、ゆめしずく、白鳳、さおとめ、ちよひめ		5000倍	散布	露地	—
		武井早生白鳳		5000倍	散布	コンテナ	—
		日川白鳳		5000倍	散布	露地鉢植え	—
りんご		ふじ、王林、つがる、ジョナゴールド		1250倍	散布(倍量)	露地	—
		ふじ、王林、ふじ/マルバ台		2500倍	散布	露地	—
かき		ふじ、王林、ふじ/マルバ台、ふじ/M9A、スターキング、涼香の季、みしまふじ、ふじ/ワイ台、ふじ/M26台、紅玉		5000倍	散布	露地	—
		次郎、禅寺丸、平核無、富有、三社		2500倍	散布	露地	—
		次郎		5000倍	散布	露地	—

委託試験結果

作物名	害虫名	試験年度	試験場所	希釈倍数 (倍)	処理方法	対照薬剤	効果		発生状況	
							対照	判定		
茶	チャノコクモモンハマキ	2005	日種防(野茶研茶虫)	2000	散布	ダズバンE40	A	B	少	
	チャノホソガ	2005	熊本茶球塵	2000	散布	ランネット45DF	B	B	多	
			鹿児島茶	2000	散布	モスピランSLL	B	A	少	
		2006	京都茶	2000	散布	モスピランSLL	B	B	少	
			宮崎茶	2000	散布	モスピランSP	B	A	甚	
	りんご	ギンモンハモグリガ	2004	奈良種	2000	散布	スプラサイドE	A	A	少
				宮崎茶	2000	散布	モスピランSLL	B	A	甚
			2005	鹿児島茶	2000	散布	モスピランSLL	B	A	少
				日種防研(秋田)	5000	散布	アドマイヤーWDG	B	A	多
			2006	石川種	5000	散布	アドマイヤーWDG	A	A	中
青森種				5000	散布	アドマイヤーWDG	B	A	多	
りんご	キンモンホソガ	2004	秋田果	5000	散布	アドマイヤーWDG	B	B	少	
			青森種	5000	散布	アドマイヤーWDG	B	A	少	
		2005	秋田果	5000	散布	アドマイヤーWDG	B	A	少	
			石川種	5000	散布	アドマイヤーWDG	A	A	少	
		2006	日種防研(秋田)	5000	散布	デミリンW	B	A	中	
			長野果	5000	散布	硫酸ニコチンL	B	A	少	
		2005	石川種	5000	散布	デミリンW	B	A	少	
			長野果	5000	散布	デミリンW	A	A	中	
		2006	秋田果	5000	散布	デミリンW	A	A	中	
			石川種	5000	散布	デミリンW	B	A	中	
りんご	ケムシ類	2006	岩手	5000	散布	ダズバンW	B	A	少	
			石川種	5000	散布	ダズバンW	B	A	少	
		2005	秋田果	2500	散布	ダズバンW	A	A	少-中	
			石川種	2500	散布	ダズバンW	B	A	中	
		2004	岩手	5000	散布	ロムダンF	A	A	少	
			福島果	5000	散布	ダズバンW	B	A	接種	
		2005	長野果	5000	散布	ダズバンW	A	B	中	
			日種防研	5000	散布	ラーピンW	B	A	多	
		2006	青森種	5000	散布	ファイブスターWDG	A	A	多	
			秋田果	5000	散布	ダズバンW	B	A	接種	
りんご	アメリカシロヒトリ	2006	日種防研(山梨)	2500	散布	ダイアジノンW	B	A	中	
		日種防研(秋田)	2500	散布	ダイアジノンW	B	A	接種		
すもも	シンクイムシ類	2006	青森種	2500	散布	ダズバンW	A	A	中	
			日種防研(山梨)	2500	散布	スカウトF	A	A	少	

委託試験結果

作物名	害虫名	試験年度	試験場所	希釈倍数 (倍)	処理方法	対照薬剤	効果		発生状況
							対照	判定	
なし	シンクイムシ類	2005	青森種	5000	散布	スミチオンW	B	A	中
			三重(園芸)	5000	散布	スミチオンW	A	B	中
		2006	徳島果	5000	散布	スミチオンW	B	A	多
			福岡	2500	散布	スミチオンW	A	A	多
		2005	秋田果天王	5000	散布	スミチオンW	A	A	中
			青森種	5000	散布	ダズバンW	B	A	多
		2006	和歌山果かき・もも	5000	散布	ダズバンW	A	A	少
			長崎果	5000	散布	ダズバンW	B	A	ナシ・少
		2006	青森種	5000	散布	ダズバンW	B	A	甚
			福島果	5000	散布	ダズバンW	A	A	モ:少
2006	岡山	5000	散布	ダズバンW	B	A	中		
	愛媛果	5000	散布	スプラサイドW	A	A	少-中		
りんご	モモハモグリガ	2006	福島種	5000	散布	スプラサイドW	B	B	少
			日種防研(山梨)	5000	散布	スプラサイドW	A	B	多
りんご	アメリカシロヒトリ	2006	日種防研(山梨)	2500	散布	デルフィンWDG	B	A	中
			日種防研	5000	散布	スミチオンE	B	A	中
りんご	ハマキムシ類	2006	日種防研(山梨)	5000	散布	スミチオンE	B	B	中-少
			鳥取	5000	散布	スミチオンE	B	A	卵塊

サムコル研究会

アグロ カネシヨウ株式会社 / 三共アグロ株式会社

北興化学工業株式会社 / 丸和バイオケミカル株式会社

(五十音順)

事務局：デュポン株式会社 〒100-6111 東京都千代田区永田町2-11-1 山王パークタワー